

ニュースレター

No.50

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1
稲城市地域振興プラザ 1F
TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971
E-mail : info@i-inagi-support.org
http : //www.i-inagi-support.org/

市民活動支援講座

地域での「気づき」を「活動」にするためのプロセスとは？

子育て、食の安全、少子高齢化… 私たちの暮らしの中には様々な問題があります。それに対して、「あれっ？」と感じたり「こうだったらいいのに」と思ったことはありませんか。

そんな日常の中で見つけた小さな「気づき」を、「活動」へと発展させていくプロセスを学ぶ講座を開催します。活動を始めている人にとってはレベルアップに、これから一歩を踏み出そうとしている人には良いキッカケになることでしょう。

日時：10月31日（土）15：30～18：00

定員：50名

会場：稲城市立iプラザ 大会議室

参加費：無料

講師：広石拓司氏

主催：市民活動サポートセンターいなぎ

（株式会社エンパブリック代表取締役）

○申し込み・問い合わせ：市民活動サポートセンターいなぎ（当日参加も可能です）

電話 042-378-2112 メール info@i-inagi-support.org/ web サイト http://i-inagi-support.org/

パネルディスカッション&座談会

子育てを軸とする暮らしの中で自分らしく働く プチ起業しているママのリアルを聞く

子育てを暮らしの軸としながら自分のペースで自分の「好き」や「得意」を仕事にしている、そんなプチ起業家のママ達にリアルな話を聞いてみませんか。

前半は、起業の動機や仕事の楽しさや悩みなどパネリストの実態に迫ります。後半ではテーマを深め自分の本音と少しだけ向き合うような座談会を行います。

きっと気づきや勇気をもらえるはず。一歩前進したいママ、ぜひご参加ください。小さなお子さん連れも大歓迎！

日時：10月22日（木）10：00～12：00

定員：30名

会場：稲城市立iプラザ 大会議室

参加費：無料

パネリスト：滝澤あき子さん（7-mira 代表）

主催：稲城はたらくママの会

渡辺典子さん（お片づけアドバイザー）

後援：創業支援センター TAMA

○問い合わせ先：稲城はたらくママの会

メール info.iwmc2013@gmail.com web サイト http://iwmc.jimdo.com

つなげよう！いなぎの生命 伝えよう！ともに生きる力



生物多様性キャラクター応援団員
稲城なしのすけ
(©K.Okawara・Jet Inoue)

いなぎの生物多様性

「生物多様性」とは、簡単に言うと、地球上の生物がバラエティに富んでいること。つまり、複雑で多様な生態系が存在していることを示す言葉です。

私たち人間は、「生物多様性」から多くの恩恵を受け、支えられて生きています。ですから、私たちの生存基盤となるととても大切なものなのですが、近年は自然環境の破壊等により、これまでにない早さで失われつつあります。

そうした危機感から、生物多様性の保全を目指した自然保護プロジェクトが、世界各地で展開されつつあります。稲城市でも、今年3月に「つなげよう！いなぎの生命 伝えよう！ともに生き

る力」を基本理念にした「生物多様性いなぎ戦略」を策定しました。

そこには次のような基本方針が掲げられ、様々な施策が示されています。

- 多様な生きものが生息・生育する空間づくり
- 自然を守り・育て・活かすための「場づくり」「人づくり」「暮らし方と地域社会づくり」

それらの施策を実現するには、一人ひとりの市民が「自分たちのこと」として積極的に関わり、行政と一緒に推し進めていく必要があります。

そこで今号では、以前から市内でそうした取り組みを行っている団体の活動を紹介します。

里山再生は生物多様性に貢献

NPO 法人 いなぎ里山グリーンワーク

私たちの会は、里山の再生を目的に、2004年から活動してきました。その活動の一つが、雑木林（二次林）の管理です。

雑木林に生える樹木は、明るくて光がよく当たる土地を好みます。樹木だけでなく、林床に光がたくさん入るため、そこには様々な野草が生え、それらに寄ってくる昆虫や鳥、動物もたくさん棲むようになります。

また、草原や田畑、池、小川なども含めて「里山」と考えると、里山には実に多様な生物が存在していることが分かります。すなわち、里山の再生は、生物多様性にも貢献する活動なのです。

私たちは、そういったことも意識しながら、活動を続けています。

○お問い合わせは、同会事務局（Tel 042-379-1405）まで。



背丈の数倍にも伸びたアズマネザサを伐採し、雑木林を整備したら、その年に、30年以上も眠っていたキランが咲きはじめました

少しでも多くの森を守り育てる NPO 法人 南山の自然を守り育てる会

私たちは20年前に発足し、南山で子供と共に自然に親しむ活動を行ってきました。

その頃、南山の開発計画が立てられました。市街化区域の里山は、固定資産税がかかり、開発事業により森が宅地になれば、土地所有者は土地を売却できます。

森を訪れる住民は自然を楽しみ、環境を守りたいと思いますが、税金などのコストを負担する訳ではありません。できれば開発を止めてもら

いたいと思いましたが、企業や個人が所有する

土地開発に反対しても限界があります。

「それなら、少しでも多くの森を残して守り育てていくことが大事」と発想を切り替え、現在は区画整理組合と一緒にオオタカやトウキョウサンショウウオの生態系を調査したり、環境共生住宅の提案、里山イベントなどを行っています。

○お問い合わせ・活動情報等は同会 web サイト (<http://ina-mina.com>) まで。



里山での音楽ライブ



野草園を憩いと学びの場に 大丸野草の会

多摩ニュータウンの開発が身近に迫ってきた中で、「このままではいけない、野草を守ろう」と、大丸婦人会の25名が集まって1982年に発足し、今年で33年が経ちました。

城山公園に野草園が整備され、カタクリの球根が植えられてから24年になります。会も高齢化が進み、メンバーも入れ替わってきていますが、現在15名の会員が毎月1回の

野草園の整備、春と秋の野草展、3月にカタクリ祭などを開催しています。また、年間を通じて観察できる野草、約150種をリストアップしています。

野草園が市民の方々の憩いの場、学習の場になることを願っています。

○お問い合わせは、代表・町田伸一さん (Tel 042-277-4001) まで。



絶滅危惧種となっているカタクリ



動植物と人間の棲み分けを NPO 法人里山プロジェクトみなみ

私たちは南山で下草刈り、間伐等の里山保全活動をしています。自分たちの思い描く里山を目指して、雑木林に遊歩道を整備し、憩いのベンチと広場を設けたら、いつしか地域や市外から人々が散策に訪れるようになりました。

保全活動の傍ら、活動拠点の「一の森」「桜の広場」は、人々が集える「森の縁側」として、親子で楽しむ昆虫観察会や森の展覧会、芋煮会などを開催し、里山を満喫しています。

皆さんが森の散策を楽しむ遊歩道には、「動植物と人間の棲み分け」という、生物多様性に関わるもう一つの目的もあります。人がいつも歩く所に植物は生えなくなり、人が自由に立ち入る場所に動物は棲息できません。

森の中は多種多様な生き物が共存できる場であってほ



落ち葉掻き



昆虫観察会



森の展覧会

しいと願いながら活動しています。

○お問い合わせは、同会代表：多村淑子さん (Tel 090-4751-4525) または Facebook ページ「稲城里山南ちゃん」まで。

城山の専門家として生態を伝える 城山トコロジストの会

トコロジストとは、「場所」(トコロ)と「~する人」(ジスト)を合わせた造語で、ある地域や場所について、生き物や地形、歴史、文化など幅広い知識を持ち、「その場所のことなら何でも知っている専門家」です。

同会の代表・箱田さんが、子供と休日が合わず自然の中へ連れて行けない代わりに、自宅近くの城山公園を散歩するうち城山への理解と関心が深まり、やがて地域の子供や大人も一緒に行くようになり、2012年に会として活動を始めました。

現在は、親子連れなど30～40人が参加する自然観察会やワークショップを月に1回開催するほか、城山小学校の1・3・4年生に自然観察の体験授業を行うなど、四季折々の城山の魅力を伝えています。

「1、2か所でもいいから、自分のまちでホッとできる場所を見つけて足繁く通っていると、その場所への愛情が育ち、愛着が湧いてくると思います」と箱田さんは「トコロジスト心得」を話してくれました。(取材：種田匡延)



初めて間近で見る水の中の生き物やチョウに興味しんだけど、ちょっとコワイ

普段は気付かない小さな虫なども、トコロジストには見えるようです



○活動情報等は、同会のwebサイト・Facebookページをご覧ください。「城山トコロジストの会」で検索!

おじゃまします

稲城・なごみの家



「稲城・なごみの家」を訪問しました。

今日は「みんなでクッキング」の日です。朝10時から台所は野菜を切る人、煮る人で大賑わい。まず驚いたのは材料の種類の多さでした。

ソーメンの上に、肉や野菜を彩りよく8種類。その他、白和えとキュウリの酢の物。ヨーグルトデザートにも5種類のフルーツ。最後に美味しいコーヒーまで。一人の食卓ではとてもこれだけの材料は使えません。一人500円の参加費で赤字も出さず上手にやりくりしてくださると、会の代表者・滝沢文恵さんはスタッフに感謝しておられました。

滝沢さんがこの会を立ち上げた目的は「一人ぼっちをなくそう」でした。趣旨に賛同した40～50人がカンパし、パルシステムの助成金50万円で2007

年にスタート。場所を探していた時、バリアフリー2階建ての家が借り手を探しているという情報が入り、契約しました。現在は家主さんが家を建て替え、1階をなごみの家が使用、2階をアパートとして貸しておられます。

滝沢さんのこれからの目標は、男性会員がもっと増えることだそうです。もう一つの目標であったカフェを、最近オープンすることができました。参加者の一人は「今、一人暮らしで外に出るのも人と話すのも億劫。今日は会員さんから誘いの電話があったから思い切って出かけてきました」。このような会員さんの地道な努力が会の継続の力となっていると感じました。

食事が終わった頃、ある会員さんが庭の畑で獲れたという大きな冬瓜を持って来られ、皆で分けていただいて帰りました。「楽しいから続けます」という滝沢さんの言葉がよく理解できた訪問でした。

月の半分は色々なイベントを行っています。お問合せはNPO法人 稲城・なごみの家(稲城市東長沼617-1、電話&FAX 042-379-4536)まで。

